

9



本丸高段部分法面

もとからの岩盤（↓）も上手く利用して段を作っています。

10



本丸高段部分出土（肥前）

江戸時代（18世紀初頭）のものか？

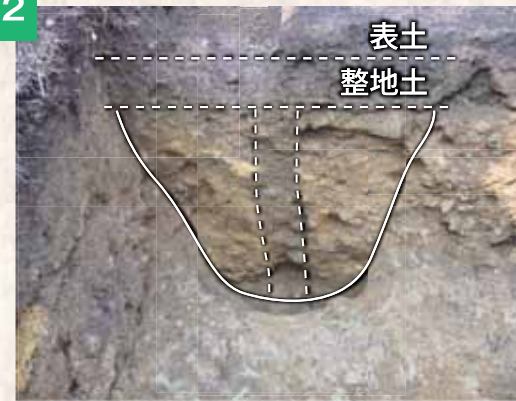
11



古本丸西側土塁断ち割り

排水を考えて、砂利、砂、土、粘土を層状に積んでいます。

12



掘立柱痕跡

タテに黒く見える部分が柱の痕跡。その上に整地された時の土層があることから、穴と整地面との間に時期差が考えられます。

13



かわらけ出土状況

「かわらけ」と呼ばれる素焼きの皿が100枚近く発見されました。

7



本丸平坦面礎石

本丸御殿の一部か？多くの礎石が発見され、複数時期の建て替えが推測されます。
また、建物の周りには砂利が敷かれていたことがわかりました。

調査の軌跡

これまで確認調査を行った本丸、古本丸について写真で紹介します。草や腐葉土などに埋もれていた、烏山城が使われていた時代の痕跡を発見することができました。

写真番号は右図の場所を指しています。右中段から時計回りにご覧いただくと常盤曲輪石垣から本丸、古本丸と調査した場面が並びます。

8



礎石（拡大）

黒く線のように柱があった痕跡が見えます。右端には赤く焼けている部分が見られることから火を受けたと考えられます。



1



常盤曲輪石垣（吹貫門脇石垣）

自然石をあまり加工せずに積み石として用いた野面積みという技法による石垣。

目地の隙間も広く小詰石も少ないが石が動く余地のないように組み合っています。

常盤曲輪の大手道に面しており、吹貫門跡から約30mにわたり現存。石積みは最高で約3m残っており、扇の様な反った勾配はなく直線的です。

6



L字に曲がる石列

敵が最短距離で移動できないように障壁を設けていることがわかります。

5



本丸石垣前斜面の石段

正門から本丸平坦面までは、本丸石垣（正門脇石垣）の前面を大手道が通り、本丸に向けて傾斜しています。

4



本丸石垣（正門脇石垣）

隙間がなく表面も平らに加工された切込ハギという技法による石垣。中央付近は震災により崩壊寸前です。

3



正門付近

方形に整えられた石材（↓）が正門。

2



吹貫門付近石列

谷側からの写真で奥が正門になります。